

時代が望んだ魔術師 村上世彰

今や現物市場の 10 倍以上の金額が動くといわれている金融市場。アメリカのグローバル化が押し寄せてきた影響か、日本でも庶民の間で「株」が身近な存在になりつつあります。

そして今や、日本の金融市場を語る上で外すことの出来ない人物がいます。華やかな経歴を持ちながらも大胆不敵な行動を取り、「物言う株主」として知られる村上世彰氏です。



ニッポン放送株取得問題の時の村上氏（2005/3/18）

I 大器の片鱗

村上氏は大阪生まれの大阪育ちで、生粋の関西人です。彼は小学 4 年生のときに父親から 100 万円を渡され、「これで自分の小遣いを稼げ」といわれて株式投資を始めました。そのとき父から「上がり始めてでも買う。下がり始めた時に、下値を追ってでも買う。安い時に買えると思うな、高い時に売れると思うな」という投資哲学を教わったそうです。もちろん彼以外に株式投資を行っていた少年などはいませんでした。その 100 万円は、大学卒業時には数億円にまでなっていたといわれています。

それだけでなく彼は日本最難関といわれる灘中学に合格したばかりか、最高学府である東京大学に進学した超エリートでもあります。大学卒業後も通産省（現在の経済産業省）に入省し、その将来は約束されたも同然と思われていました。

II こっちがドリームチーム？

しかし彼は 1999 年に通産省を退職し、ヘッジファンドである株式会社 M&A コンサルティング（MAC、通称村上ファンド）を設立しました。パートナーに選んだのは灘中以来の友人であり、野村證券のホープであった丸木強氏。温和な性格で人望が厚いといわれる人物です。もう 1 人は彼が「こいつは天才だ」と見込んだ元警察官僚で、在日アメリカ大使館の政治顧問であった滝沢健也氏。手堅く仕事をこなし、英語が堪能で評判の人物でした。

この強力な 3 人に加えて、オリックス社長（当時）の宮内義彦氏の後ろ盾を得た MAC は、当初 40 億円だった資産を今では 2000 億円にまで殖やしました。その実力は、「空売りやデリ

バティブをしない買い持ち一本のファンドとしては驚異的です」とプロが舌を巻くほどです。

Ⅲ 日本金融市場に新風をもたらす

とはいっても最初の頃のファンドは、話題は振りまくが結果が伴わないものでした。割安を見込んで行った昭栄に対するTOBも、キャノンや富士銀行を始めとした同社の筆頭株主に潰されてしまい、大幅な増配・自社株買いを求めた東京スタイルの時も、外国人投資家や個人投資家の支持を得られずに終わります。

しかし「会社は社長のもの、従業員のもの」という日本の古くからの考え方をぶち壊していったのは事実です。また、ライブドアの堀江社長に買収の手解きを行うなどその実力は折り紙付きです。現在も阪神電鉄株問題で、「球団の上場」という新たなテーマを投げかけています。

Ⅳ 魔術師の横顔

元経済企画庁長官：堺屋太一氏

「経済人と事件屋の2つの顔を持っている」

株式会社USEN社長：宇野康秀氏

「言いつ放しの評論家と違い、村上さんは企業に経営改善を促す手法を独自に編み出した」

株式会社産業再生機構専務：富山和彦氏

「村上君の主張は、資本政策の技術的な問題ばかり。もう一歩進化して会社をどうマネジメントし、経営改善させていくかまで踏み込めていない」

村上 世彰（むらかみ よしあき） 年譜	
1959 年（0 歳）	・大阪府大阪市に生まれる
1974 年（15 歳）	・灘中学校卒業
1977 年（18 歳）	・灘高校卒業
1983 年（24 歳）	・東京大学法学部卒業 ・通商産業省（現経済産業省）入省
1999 年（40 歳）	・通産省を退職し、(株)M&A コンサルティングを設立
2000 年（41 歳）	・昭栄(株)に対して敵対的TOB（日本初）を実施するも、失敗
2002 年（43 歳）	・(株)東京スタイル問題勃発
2004 年（45 歳）	・大阪証券取引所株取得問題勃発
2005 年（46 歳）	・ライブドアによるニッポン放送株取得問題勃発、影に氏の姿が？ ・阪神株取得問題勃発

参考：

ある人のある一日

<http://d.hatena.ne.jp/aki-shigure/20050928>

J_Coffee の株式投資日記

http://members.at.infoseek.co.jp/J_Coffee/main.htm

asahi.com

<http://www.asahi.com/business/aera/TKY200507070145.html>